

機関番号：14401

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2008 ～ 2010

課題番号：20320055

研究課題名（和文） ヒンディー・ウルドゥー韻律のリズム構造の解明  
—ペルシア起源説の検証をとおして—

研究課題名（英文） A study on the rhythmical construction of the Hindi and Urdu metre and its origin in Persian prosody

研究代表者

長崎 広子 (Hiroko Nagasaki)

大阪大学・世界言語研究センター・准教授

研究者番号：70362738

研究成果の概要（和文）：ペルシア詩、ウルドゥー詩、ヒンディー詩、ベンガル詩の韻律におけるリズム構造をそれぞれの研究者が解明し、古典サンスクリットから受け継がれたインドの韻律に外来のアラビア・ペルシア韻律のリズムが与えた影響を考察した。分担者と研究協力者は現地で韻律の朗唱サンプルを収集し、ヒンディー、ウルドゥー、ペルシア、ベンガル韻律の音声サンプルを付したデジタル詩論書を作成して専用のサーバー上

<http://hin.minoh.osaka-u.ac.jp/>で、公開した。明たな発見としては、ペルシア韻律で規定されるウルドゥー韻律のヒンディー（インド）詩形はペルシア韻律のリズム構造にまったくないので、サンスクリットの Āryā にその原型が伺える。また、ヒンディー韻律では、16世紀以降、サワイヤー調とよばれる詩形が人気を博すが、原型はサンスクリットのヴァルナ韻律にあるものの、それを倍の長さにして、脚韻を加えた新種の詩形である。その成立過程にはウルドゥー、しいてはペルシア韻律の影響を予測させるものがある点である。なお、インド音楽とペルシア音楽の研究者による詩の朗唱の際の韻律と音楽リズムとの関係に関する論考を含め、研究成果は、近くインドから英文論集 *Indo-Persian Prosody and Recitation* として出版の予定である。

研究成果の概要（英文）：

The members of this project team studied the structure and basic principles of Hindi, Urdu, Bengali and Persian metres. The main purpose of this project is to find the influence of Persian metre on Urdu as well as Hindi metres which derived from traditional Indo-Aryan metre. We made the digital poetics database of Hindi, Urdu, Bengali and Persian metres with samples of recitation, and made them available to the public on the project Web site. The most remarkable discovery is that Urdu metre which applied Persian metre developed a poetic rhythm, a uniquely Indian metre unknown in Persian metrical tradition, and it is essentially identical with Āryā of Sanskrit metre. Another discovery is the Savaiyā class of Hindi metre, a doubled form of original Sanskrit metre with end rhyme which have been popular since the 16<sup>th</sup> century. Interestingly, the development of this class took place under the influence of Urdu and Persian metres. The musicologist members of the project tried to find the relationship between the verbal rhythm and the music rhythm of recitation. The members of this research group wrote papers on these findings and they will be published as a book *Indo-Persian Prosody and Recitation* in 2011.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	2,200,000	660,000	2,860,000
2009年度	2,200,000	660,000	2,860,000
2010年度	2,100,000	630,000	2,730,000
総計	6,500,000	1,950,000	8,450,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・各国文学・文学論

キーワード：ウルドゥー文学、ヒンディー文学、ベンガル文学、ペルシア文学、韻律

#### 1. 研究開始当初の背景

南アジアの諸言語の文学研究のなかで、西洋の影響を受けて近代文学が成立する以前の中世文学は、信仰文学や宮廷文学など、多様で豊かな伝統を有している。しかし、初期の新インド・アーリア語の文法がよく知られていないことや、語彙の面では古典語が多く用いられ、文体はもっぱら韻文で書かれているため、理解が困難で、研究は必ずしもすすんでいない。

#### 2. 研究の目的

(1) 一般に韻律の研究には音節の軽重あるいは長短の記号を用いたスキミング方法で表記され分析が行われているが、文献として残された韻文も朗唱されており、聴覚から与えられる詩の味わいといったものを図ることができなかった。そのため、本研究ではさらに音声サンプルを付けたデジタル詩論書をヒンディー、ウルドゥー、ベンガル、ペルシア韻律で作成することによって、これまでの詩論書を発展させ、実際の音のリズムの鑑賞もできるようにする。

また、詩の朗唱の音声データを現地で収集し、これらはすべてネット上で公開する。

(2) ペルシア詩からヒンディー・ウルドゥー韻律にもたらされた影響の考察。

イスラーム化以降のペルシア詩の研究者、ウルドゥー文学研究者および代表者（ヒンディー文学）による共同研究行う。

(3) 中世ヒンディー文学の代表的詩人（スールダース、ケーシャヴダース、カビール、トゥルシーダース）について、それぞれの研究者が作品の韻律に焦点を合わせて研究する。

(4) 詩の朗唱の際の韻律規則からの逸脱の問題を音楽学の立場から研究する。

#### 3. 研究の方法

ヒンディー、ウルドゥー、ベンガル、ペルシア韻律を文献によってその構造を考察するとともに、音声データの収集によってこれまでにないデジタル詩論書の作成と文献学的手法の両面からアプローチした。これらの言語の韻律における共通点や相互の影響、さらに朗唱における韻律規則からの逸脱をそれぞれの言語の分担者と音楽学の研究者が研究発表を行い、議論と考察を行った。

#### 4. 研究成果

ヒンディー、ウルドゥー、ベンガル、ペルシア韻律の音声サンプル付きのデジタル詩論書を作成し、成果公開用サーバーにて一般公開した。また、それぞれの言語の詩の朗唱の音声サンプルも現地で収集し、同サーバーで公開した。

ヒンディーとウルドゥーは同一の源を有する言語であるが、それぞれインド固有の韻律とペルシア韻律という異なる韻律が採用されているが、両者ともに音節のモーラを基準にしているため、韻律上同じリズムを両者で表現できることが本研究で明らかになった。さらに、ウルドゥー韻律ではそれまでペルシア韻律にはなかったヒンディー（インド）詩形とよばれる新たな韻律を創造し、それは本来サンスクリットのヴァルナ韻律の詩形を二倍にしたものだが、そこに脚韻というペルシア韻律の特徴のひとつを加えた。さらに、それがヒンディーの韻律に採用され、サヴァイヤー類という一群の詩形となって中世以降現代に至るまで極めて好まれている。

ベンガル韻律では、ヒンディーと同様のマートラー韻律が用いられる一方で、ベンガル地域に固有の韻律のリズムも好まれている。長母音と短母音の区別が消滅したことにより、韻律のカウント方法が複雑化したことが、ラビンドラナート・タゴールが提唱した方法による三種類が現代ではスタンダードとされていることが明らかになった。なお、昨今の詩人のなかには、この三種類の方法を組み合わせた独創的な詩作を行うものも現れている。

インドの韻律の歴史的発展に関しては、ガナチャンドラスからマートラーチャンドラスが生まれた点が画期的なことであった。新期インド・アーリア語の時代になってそれぞれの地域の言語による韻律が確立されるが、外来のペルシア韻律を採用したウルドゥー韻律のなかのインド詩形にはサンスクリットの韻律のなかでも最初期の Arya にその原型が伺えるものがあり、時代を越えても好まれるリズムに時代による好みが付加されて今日まで継承されていることが明らかになった。

#### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計 23件)

- ①長崎広子、聖者トゥルシーダース伝の変容、説話・伝承学、査読有、第19号、(2011)、1-20
- ②北田信、千年前の歌声(続) カトマンドゥ盆地のチャチャ歌、南アジア古典学、査読有、第5号、(2010)、161-176
- ③松村耕光、「悪魔の評議会」-イクバルのウルドゥー詩(2)-、イスラーム世界研究、査読無、3巻、1号、(2009)、442-447
- ④佐々木あや乃、ハーフェズ詩注解(6)、東京外国語大学論集、査読有、第79号、(2009)、121-141
- ⑤坂田貞二、中世ヒンディー文学に採り入れられた一年の十二カ月を描く民謡バーラハ・マーサー——季節の移り替わりと女性の心の揺れに注目して——、ヒンディー文学、査読無、4号、(2009)、68-90
- ⑥北田信、千年前の歌声～チャルヤーパダとカトマンドゥのチャチャ歌伝承、南アジア古典学、査読有、第4号、(2009)、205-232
- ⑦佐々木あや乃 「ハーフェズ詩注解(5)」東京外国語大学論集、査読無、77、(2008)、135-152
- ⑧佐々木あや乃 “Tahavvol-e estelahat-e ’erfani - moqayese-ye Sharh-i ta’arruf limazhab al-Tassawuf ba Kashf al-Asrar wa ’Uddat al-Abrar?(va estefade az dade-ye kampyuteri-ye Kashf al-Asrar wa ’Uddat al-Abrar (al-Nawbat al-Thalitha))- “、*Ayene-ye miras (Mirror of Heritage)*、査読無、New Series, Vol. 6, Issue No. 2 (41)、(2008)、392-403
- ⑨北田信 「ベンガルの詩的象徴 吟遊詩人バウルと古ベンガル語の仏教賛歌集」南アジア古典学、査読有、第3号(2008)、227-274

〔学会発表〕(計 21件)

- ①Takamitsu Matsumura, Hindi Elements in Urdu Poetry, International Hindi Seminar, 2010年11月28日、大阪大学、コンベンションセンター
- ②長崎広子、聖者トゥルシーダース伝の変容、説話・伝承学会 2010年度春季大会、2010年4月25日、花園大学

③北田信、放浪者の言語～チャルヤーパダの言語学的諸問題、印度学仏教学第60回学術大会、2009年9月8日、大谷大学(京都府)

④Hiroko Nagasaki, The Bhakti period and the split of the Hindi and Urdu metres, Tenth International Bhakti Conference, 24 July, 2009, Hungarian University of Transilvania (Miercurea Ciuc, Romania)

⑤Teiji Sakata Lord Shiva and His Consort Parvati Assist Young Couples in their Marriageas referred to in Hindi Devotional Literature and Folk songs, Tenth International Bhakti Conference, 23 July, 2009, Hungarian University of Transilvania (Miercurea Ciuc, Romania)

⑥Yoshifumi Mizuno, On the story of Candrahāsa: Transmission of a narrative and Bhakti, Tenth International Bhakti Conference, 22 July, 2009, Hungarian University of Transilvania (Miercurea Ciuc, Romania)

⑦佐々木あや乃、ハーフェズの詩における「集い」の描写、International Conference of "Shiraz School" (Shiraz)、2008年12月7日、Ministry of Culture and Islamic Guidance

⑧北田信、真夜中に咲く花～仏教タントラ修行歌集チャルヤーパダ、日本印度学仏教学会第59回学術大会、2008年9月4日、愛知学院大学

〔図書〕(計 8件)

①Hiroko Nagasaki ed. *Indo-Persian Prosody and Recitation*, Delhi Saujanya Books, 2011 (出版予定)

〔その他〕

ホームページ等

<http://hin.minoh.osaka-u.ac.jp/>

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

長崎 広子 (Nagasaki Hiroko)

大阪大学・世界言語研究センター・准教授  
研究者番号：70362738

### (2) 研究分担者

松村 耕光 (Matsumura Takamitsu)

大阪大学・世界言語研究センター・教授  
研究者番号：60157352

山根 聡 (Yamane So)  
大阪大学・世界言語研究センター・教授  
研究者番号：80283836

水野 善文 (Mizuno Yoshifumi)  
東京外国語大学・外国語学部・教授  
研究者番号：80200020

佐々木 あや乃 (Sasaki Ayano)  
東京外国語大学・外国語学部・准教授  
研究者番号：60272613

橋本 泰元 (Hashimoto Taigen)  
東洋大学・文学部・教授  
研究者番号：40256764

坂田 貞二 (Sakata Teiji)  
拓殖大学・商学部・名誉教授  
研究者番号：80109751  
(H20 年度まで分担者、以降は研究協力者として参加)

(3) 研究協力者

北田 信 (Kitada Shin)  
東方研究会・研究員  
研究者番号：60508513

丹羽 京子 (Niwa Kyoko)  
東海大学・非常勤講師